

甲南大学法科大学院入学試験問題について

－ 2015 年一般入学試験（前期募集） －

試験科目：憲法（地方）（担当：法科大学院 教授 早瀬勝明）

1. 出題趣旨

【第1問】は、麴町中学内申書事件（最二判昭和63年7月15日判時1287号65頁）を素材とした事例問題である。基本書や判例集で確認できる関連基礎知識を身につけているか、事実関係に基づいた議論が展開できるかを問うている。事実関係を理解し、上記判例やそれに対する批評を参考にしながら考えていけば、解答できると思われる。

設問1～3は独立の問いではなく、すべてつながっている。設問1で示した保障内容を前提に、設問2は書く必要があるし、設問3は設問2の主張に対する反論でなければならない。

なお、論じ方は一つではない。内心の自由の問題としても良いし、内心と密接に関連する行為の自由の問題としても良いし、両方でも良い。論理的に筋の通った説得力のある記述がなされていればプラス評価とする。ただ、類似事案の判例における議論の仕方とあまりにかけ離れている場合は、マイナスの評価を与える。判例を無視した議論は、少なくとも実務家志望者が行うものとしては、好ましくない。

2. 採点実感

【第1問】について。全体として見れば、できは悪くなかったと思う。麴町中学内申書事件での原告の主張と最高裁の判断で示された論理を、本問の事実関係に照らしつつ応用することが出来ている答案も多かった。一方で、未だに「丸暗記した他人の文章をそのまま書き写す」型の答案があるのには、少々驚いた。そのような答案の書き方は、今や受験対策として誤っていると思われる。

【第2問】は、2つまでは答えられるが3つめが書けていないものが多かった。

3. 学習方法

実務家志望の人にとっては、基本判例の学習は必須である。判例を事例問題のように読み解くこと。すなわち、(ア) 事実関係、(イ) (訴訟当事者や裁判官による) 法的问题構成の仕方、(ウ) 判例が示した問題解決の仕方(判断基準など)、(エ) 事実認定および評価の仕方(あてはめ)を理解すること、判断基準などの重要な知識を暗記することが目標となる。

また、基礎知識を覚える必要があるのは当然であるし、体系的な理解を獲得するためには、基本書を読み解くことも必要となるだろう。